

令和3年度 自己評価書及び学校関係者評価書

令和4年(2022年)3月14日
札幌市立啓明中学校

1 本年度の実践目標

令和3年度実践目標
 生徒一人一人が主役となる 一体感のある学校を目指そう
 ○明るく進んで「あいさつ」を交わそう。
 教職員は、率先垂範となって「あいさつ」の学校文化を築く。
 ○歌声が響き合う学校にしよう。
 ○自発的、自治的な学級活動、生徒会活動により、よりよい集団をつくろう。
 ○安全な生活のために、きまりやルールを守り、正しく判断し、自己を律する心をもとう。

2 本年度の学校運営の重点

I 包括的な札幌市学校教育の重点に向けた学校運営
 (1)感染症対策を講じた学校教育の推進 (2)「小中一貫した教育」の推進。(3) ICTを活用した教育の推進
II 啓明イノベーションに係る運営の重点
 (1)学校組織体制の一層の充実 (2)知・徳・体の調和のある教育課程づくりとPDCAサイクルによる検証、及びカリキュラムの再編 (3)良質な教育活動、経営方針の具現化に向けた学校運営の改善、充実を図るための効率的で効果的な会議の在り方について検討 (4)職場環境の整備と働き方改革への対応
III「学ぶ力の育成」を目指す授業の創造～「わかる」「できる」「楽しい」教育実践
 (1)教材や発問の工夫、話し合いや振り返り活動等を手立てとした課題探求的な学習の実践 (2)「学ぶ力」を支える3つの力「学ぶ意欲」「生かす力」「学んだ力」を育む学習指導の充実 (3)主体的に学習に取り組む学習習慣の定着にむけた授業の工夫や家庭との連携 (4)生徒の資質や能力の育成及び授業改善に向けた「学習指導と学習評価」の一体化に向けた研究と実践 (5)基礎・基本の確実な定着と個の指導の充実に機能する「少人数・習熟度別指導の活用」や個別支援 (6)校内教員間の授業交流や礼教研事業等の各種研修会参加による授業の工夫・改善 (7)タブレット端末等のICT機器活用による授業実践
IV「豊かな心の育成」「健やかな体の育成」に関すること
 (1)生徒理解を重視した生徒に寄り添い対話を大切にする「足で稼ぐ生徒指導」(2)全教育活動を通して子どもの規範意識や社会性を育成 (3)「報・連・相」の徹底、共通行動に基づいた学年会及び学校生徒指導組織体制の一層の充実 (4)校内学びの支援委員会を核とし教育相談を通しての生徒理解の充実 (5)生徒の自発的、自治的な学級活動、生徒会活動の一層の充実 (6)学級のよりよい集団づくりに向けた、学級会一実践活動一振り返りの学級活動の重視 (7)新たな不登校を生まないよう教師による集団の「居場所づくり」と生徒による「絆づくり」の推進 (8)「いじめ」「不登校」の予防・早期対応の組織的な取組 (9)子どもの学校、学級復帰を目指した全教職員による同じスタンスの温かい支援 (10)初動対応で、事柄の背景要因を含めた迅速で確実な事実確認と的確な対応策の決定 (11)家庭との密な連携と適切で迅速な初期対応 (12)「考え・議論する道徳」の確実な実践と指導計画の充実と適切な評価 (13)夏季におけるジャージ登校の継続、「健やかな体」育成プログラムの推進 (14)学活や道徳科、総合的な学習の時間等に実践による命を大切にする指導の充実 (15)部活動の複数顧問制の促進
V 札幌らしい特色のある学校教育、子どもの発達への支援、信頼される学校の創造等
 (1)朝読書の継続実施 (2)学校司書との連携による学校図書館の一層の活用促進 (3)生徒一人一人を大切に特別な配慮を必要とする生徒への支援の充実 (4)総合的な学習の時間等で「自分らしい生き方」「社会的・職業的自立」に向けたキャリア教育を推進 (5)安全教育(生活安全、交通安全、災害安全)、人間尊重の教育、国際理解教育、環境教育の推進工夫 (6)コロナ禍の状況を踏まえた無理のないPTA活動や地域社会との連携推進 (7)保護者、地域に向けた学校HP、学校だより等による学校教育活動の情報発信の継続 (8)教職員は、教育公務員としての責任を自覚し、服務規律を遵守し自己研鑽に努める

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

- 「A」…学校全体として、よく当てはまる。または十分達成されている。
- 「B」…学校全体として、概ね当てはまる。または概ね達成されている。
- 「C」…学校全体として、あまり当てはまらない。または不十分である。
- 「D」…学校全体として、まったく当てはまらない。または改善を要する。

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学校運営	教育活動の振り返りと生徒の実態を見て、実践目標は適切に達成されており、具体化に向けた教育課程が編成されている。	A	概ね達成できたと考える。教職員が昨年度に増して重点目標を意識した教育活動を行うことができた。コロナ対策を実施しながらも生徒の自治的活動を実践することができた。新学習指導要領が完全実施となり、教育評価・評定に関する校内研修会を開催し、教育課程について共通理解を図り、学びの保証と心の安定を図るための教育課程の編成を実施し、実践目標に迫る教育活動ができた。今後はコロナの状況を踏まえつつ、より生徒と教師が向き合う時間を生み出すために、「啓明イノベーション」に継続して取り組んでいく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		工夫を凝らして教育活動を実践されたことが伺えます。生徒にあたる心理面での不安や負担は看過できませんので、生徒と向き合う時間を生み出す努力を続けてほしい。また、スクールカウンセラー等による一層の支援体制の充実を切望しております。先の見えないWithコロナ禍で今までの日常が非日常となり、ICT等を活用した現実が日常化しようとしています。リアル対面でのコミュニケーションに勝るものはないと考えています。感染症対策に万全を期し、実際に向き合う時間を醸成していただきたい。			
発信	授業公開・全日学校公開日や懇談、学級・学校便りなどを通して本校の教育方針をわかりやすく保護者、地域、関係小学校に伝えている。	B	学校便り「啓明通信」は、保護者や地域に的確に伝わる内容となるよう工夫し、定期的に発行することができた。保護者アンケートからも80%の肯定的な回答があった。学校ホームページについては、画像を活用し学校の様子をタイムリーに伝えたり、内容を充実させるよう努力してきた。また、保護者メールも昨年までよりも発信した。しかし、保護者アンケートでは肯定的な回答が50%に留まってしまった。感染症対策のため、学校説明会、授業公開、啓明祭の一般公開など保護者が来校する機会が減っている。本校の教育活動を理解してもらうためのツールとして学校ホームページを積極的に活用していくことが必要であり、そのための組織的な取組を促していきたい。	A	B
学校関係者評価委員による意見		深刻なコロナ禍の状況下で、学校行事の減少や保護者来校の機会減少は当然のことであり、感染防止対策上、当然の措置であり、この点に関してあまり気にかける必要は如何なものかと考えております。コロナ禍であろうとなかろうと、インターネット等のツールを使用し情報を提供することは時代の流れだと思います。ホームページを観ることが日常となる日もそう遠くないと思います。保護者の方にご理解をいただくよう組織的に取り組んでいただきたい。保護者は相対でのコミュニケーションを更に望んでいるのではないのでしょうか。			
関係性	教職員の連携（職員室、会議、研修会等）をとり、協力し、信頼関係に基づく教育実践に努めている。	A	常に生徒の成長・変容等の姿を情報交換し、教職員一人一人が「チーム啓明」を意識して諸問題に対して組織で対応することができた。また、校務支援システムの掲示板や職員室モニターを活用し、情報を正確にかつ素早く伝えることができた。次年度も教職員間の連絡が効果的にできるよう工夫していく。	A	A
	家庭や地域、校区内小学校との連携に努めている。	A	昨年度と同様、授業参観、学校説明会、合唱部や吹奏楽部の発表等、本校の教育活動を家庭や地域に広く公開することができなかったが、啓明通信や学校HPで情報の発信を適宜行った。期末懇談会など、保護者との「直接的なコミュニケーション」の機会を精査・工夫し、引き続き連携を図っていく。校区内の小学校とは小中一貫した教育のため、コーディネーターを中心に推進計画を作成することができた。	A	A
学校関係者評価委員による意見		教職員が様々な角度から生徒の状態を把握し、チームとして諸問題に当たっている点はよい姿勢と思います。学校・家庭・社会の連携をより強固にして子供中心のコミュニティが形成されることを切望します。また、小中一貫した教育元年にふさわしい年となるよう推進計画の積極的な活用について大いに期待しております。			
授業・評価評定	生徒が落ち着いて学習できる環境づくりに努めている。	A	学習の基盤となる学級づくり・学年づくりに全ての教職員、そして生徒が一丸となって取り組むと同時に、教員個々の授業力を向上させていくよう研修・研鑽に努めた。ただ、コロナ禍で生徒、保護者が不安に感じている部分もある。生徒自身が学校で「認められている」、「役立っている」と感じられる環境づくりが必要である。今後も生徒一人一人が意欲的に取り組める授業づくりをするため、教師の授業力を更に向上させられるよう校内研修会、校外の研修会等を通して研鑽をしていく。また、学校の様子を保護者に発信することにも努めていかなくてはいけない。	A	A
	生徒一人一人の学力の定着を目指し、定着していない生徒に対する手だてを図る工夫をした授業づくりをしている。	B	今年度から、評価・評定方法を変更したが、子どもたちが知識や技能を確実に身に付けるだけでなく、それらを使って「何ができるようになるのか」という視点を大切に授業の構築を図った。さらに、TT指導による指導の工夫・改善を図った。8割の生徒が「授業が分かりやすい」と回答している。一方で、「わかりにくい」と回答している生徒も1割程度いる。今後も、生徒一人一人の学習状況に応じた授業の工夫を行う。	A	A
	タブレットなど、ICTを活用した指導法を工夫している。	A	アンケートでは、「ICTの活用は学習に役立つ」と8割の生徒、保護者が回答している。一方、否定的な回答をした生徒も約1割いる。今後もGIGA研修を重ねて行い、教員の指導方法を向上させることが必要である。またタブレット端末の使用ルールを確認するなどして情報モラルを育成し、ネットトラブル防止の取組も進めていく。	A	A

	本校のねらいを意識して、総合的な学習の時間の授業を行っている。	A	学級や学年でスピーチ交流会を行い、その後、異学年交流会を実施することで発信、受信する力の育成に向けた活動を取り入れた。感染症対策のため職場体験、上級学校訪問といった校外での活動はできなかったが、本校OB等に職業、生き方についてリモートで聞く授業を実施した。今後、情報活用能力の育成、キャリア教育の足跡としてのキャリア・パスポートの作成を実施していくために、全体計画の見直しを行う。	A	A
	生徒の学習意欲の向上に生かせる評価評定の工夫に努めている。	A	新学習指導要領について理解を深め、適切な学習指導と評価・評定の在り方について研修したため、教職員アンケートでも肯定的な回答が増加している。目標に準拠した評価の主旨を理解し、より「妥当性」「信頼性」を高める評価の在り方、「指導と評価の一体化」について、引き続き全校で研修を深めていく。	A	A
	少人数指導、ティーム・ティーチング指導などにおける教員間の協力的な指導法を工夫している。	A	少人数指導・ティームティーチングの効果的な指導の在り方について、実施教科で研修し、工夫してきめ細やかな学習指導に取り組んだ。生徒の実態に合わせて継続的に実施している。次年度も、効果的な実施方法を検討し、継続して基礎・基本の確実な定着と個の指導の充実に機能する「習熟度別指導の活用」や「個別支援」を行う。	A	A
学校関係者評価委員による意見		新学習指導要領に基づく教育の実践や各研修会の実施等多面にわたり、教師の指導力の向上に研鑽されており、今後の更なる取組について、大いに期待しております。生徒の学力、考え方等は一人一人違っているため、それぞれに適した教育・指導や個性を尊重することを一番に考えてほしい。教育現場にもデジタル化の波は否応なしに押し寄せてきます。ICT等を活用しながら教育の効果を常に検証していくことが、プロセスとして必要になると理解しています。また、一方通行とならないようにご配慮いただき、生徒や保護者の方とのコミュニケーションがより充実したものとなることを期待します。			
生徒理解・生徒指導	生徒に対して明るく元気な挨拶や声かけを意識している。	A	挨拶は、本校の実践目標の一つとして大切にしてきたものである。朝の登校時に玄関や各フロアにおいて教職員から率先して挨拶をしたり、生徒会活動による挨拶運動週間を自主的に設けたりした。このような取組もあり、明るく元気に挨拶できる生徒が多い。	A	A
	生徒に対して受容と共感に基づいた指導に努めている。	A	「教師と生徒の信頼関係づくり」を大切にする生徒指導は、本校の生徒理解の基本的な考えであり、教職員の意識も高いが、保護者アンケートでは「努めているかは不明」との回答が1割程度あった。今後も、生徒の個々の状況を複数の教職員の目で把握し、心情を多面的に理解し、発達段階に応じた的確な指導を継続していく。次年度も学年内はもとより、学年間での教師間の情報交流や連携を密にし、共通理解を深めるとともに、保護者への取組についての成果や課題等の発信に努めていく。	A	A
	大多数の生徒がきまりやマナーを守っている。	A	生徒アンケートでは、「きまりやマナーを守っている」と9割が回答している。「啓明生」としての品性を意識させ、上級生から学ぶスタイルが継続するよう、学年の役割を意識した指導を行った。委員会活動を通して、生徒同士できまりやマナーを意識できるような取組を更に充実させていく。今後も上級生の姿が見本となる本校のスタイルを継承する。	A	A
	問題行動を防ぐための予防的な指導を行っている。	A	集会や短学活を利用して、適時、予防的な指導、早期対応の取組を行ってきた。さらに、生徒会の自治的な生活充実週間の活動も有効であった。今年度は北海道警察サポートセンターによる「非行防止教室」を実施することができた。これからも日常的・定期的な相談活動を全教職員で進めていく。特に「命を大切にする指導」「いじめを防止する指導」に継続して力を入れていく。	A	A
	相談係やスクールカウンセラーと連携するなどして生徒の悩みや心配事を相談できるような配慮に努めている。	A	担任が学級の生徒一人一人と面談する教育相談日を設定し、悩みや心配事を聞く機会を設けている。いじめの有無等も聞き取ることができ、有効であった。また、「校内学びの支援委員会」を毎週定例で開催し、スクールカウンセラーを含め連携して効果的な相談体制や特別支援の体制を構築できた。それでも、教職員アンケートでは「生徒のことを理解しようとあまり努めていると思わない」との回答が増加している。働き方改革により生み出した時間を、より相談活動等に充てていくようにする。	A	B
学校関係者評価委員による意見		一人一人と面談を実施する機会を設けることは非常に良いことですが、担任だけではなくチーム啓明として校長をはじめ多くの教職員が生徒の変化に気をかけることが大切だと思います。また、スクールカウンセラーの積極的な活用や、非行防止への予防対策に努力をされており、このことが教師と生徒の信頼関係づくりに寄与していることに高く評価しております。「知・徳・体」のバランスの取れた教育を実践するためには、教職員だけでは限りがあり、外部識者や高校生・大学生等との連携も重要と考えます。オープンセミナー的な手法を取り入れるなど楽しく実践できる場作りが大切ではないでしょうか。			
危機管理	学校には防犯・防災・不審者対策等、生徒を危険から回避する体制が整っている。	A	今年度は、新型コロナウイルスの影響で、全校一斉ではなく学年ごとに避難場所集まる訓練を実施した。一斉避難には及ばないが、実際に避難することで意識の高まりがあり、課題の把握を行うことができた。また、防災学習や避難経路の確認を行うことで生徒の自然災害等に対する意識を高めることができた。また日常においては、ドアの施錠の確認、避難経路がふさがれていないか等々に注意を向け、常に教職員が校内外に危険な箇所がないか確認するなど、安全な生活が送れるように努めた。	A	A
学校関係者評価委員による意見		大地震・津波・台風・火山噴火・集中豪雨といった大規模自然災害が毎年のように繰り返されていますが、転倒や転落などの日常災害による事故も多発しています。また、人災等による痛ましい事件も発生しています。日頃から危機管理の意識をもって、有事の状況に適した避難訓練等を継続して実践していくことが重要です。また、他者への慈しみを共有できる訓練となることを期待しています。今後、札幌地域での気象変動に伴う自然災害発生が回避できない事態が予想される中で、かかる事態に対応できるよう生徒及び保護者への周知について更なる取組をしていただきたい。			
集団づくり	学校では計画に基づいて道徳・特活指導が行われている。	A	特別の教科道徳は、年間35時間、すべての価値項目に取り組むことができている。学年内ローテーション道徳により、円滑に道徳教育に取り組むことができた。さらに道徳推進担当教諭を中心に全体計画を整備している。各学年の旅的行事は感染状況により計画を変更し実施したが、生徒、保護者とも9割以上が有意義な取組であったとアンケートで回答している。今後も「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の資質・能力の育成に向けて、学級活動や学校行事等の見直しを進めていく。	A	A
	「仲間」を大切にする学級・学年づくりに努めている。	A	日常の学級指導や特活、行事に向けての取組を通して、より良い集団づくりをするための指導を実践することができた。アンケートでは、啓明祭について「前向きに取り組む、充実したものにすることができた」と9割の生徒が回答している。道徳の授業でも「仲間づくり」をテーマとする題材があり、自分事として考えを深めた。	A	A
学校関係者評価委員による意見		道徳教育や集団生活は、共に今後の生徒の人格形成や社会生活には欠かせないカリキュラムであり、「共生の心」を育む上で重要な実践教育の場と感じています。道徳教材や集団生活の大切さ、必要性について、生徒自身が高い評価をしており、今後は既製のプログラムにこだわらず生徒に適したプログラムを教職員と生徒・保護者共同で構築するなど「独立自往」の精神で、実践していただきたい。			
その他	「朝の読書活動」は生徒にとって有意義なものである。	A	朝の活動として定着している朝読書は、生徒アンケートにおいても9割の生徒が効果的だと回答している。読書の習慣形式だけではなく、落ち着いたある一日を過ごすためにも有効であり、今後も継続させていく。教職員アンケートでも、有意義であるという意見が増加した。	A	A
	部活動が生徒の自主的、自発的な参加により行われている。	A	生徒の人格形成の場として、自主的、自発的な活動が行われていた。教育活動の一環として、健全育成の機会として大切にしていきたいことが望まれる。NO部活動デーの実施や年間計画に基づいて活動することにより、市立学校の方針に沿って適切に活動を行った。3年生にとっても練習、活動の時間は短かったものの中体連大会が実施、参加でき、満足のいく活動ができたと思われる。	A	A
学校関係者評価委員による意見		コロナ禍の社会活動が閉塞感漂う環境下で、朝読書の活動や部活が継続されたこと、また、大会等が開催されたことは生徒の健全育成において、有意義であったと思います。勉強以外に部活等「打ち込めるもの」があることは生徒が成長していく上で貴重な体験となります。今後も諸活動を通して自主性や自発性を養い行動する社会人として成長していく過程を大切にしていきたい。そして、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」といった資質・能力が身につくように指導してください。生徒たちの良き理解者・指導者であってほしい。			
学校関係者評価委員によるその他の意見		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染下で相対でのコミュニケーションが取りにくい状況ですが、様々な工夫で生徒たちとの交流を実現してください。また、オミクロン株の爆発的な新規発症が加わる等長期間に及ぶコロナ禍による家庭環境の激変は、生徒に与える心理面での不安や負担は看護できないことと考えられますので、スクールカウンセラー等による更なる対応の促進について、切望いたします。 ・道内外の一部の中学、高校において発生した生徒間での「いじめ」事件について、学校当局による事実の隠ぺいや、真相の解明を軽視した対応が大きな社会問題となっております。万一、「いじめ」が発覚した場合は、学校の体面等は度外視して、真実の解明と公開をすべきと考えております。この場合、当該学校関係者や教育委員会関係者のみによる事実の解明には、限界がありますので、民間人を含む第三者機関の設置が適切と考えております。 ・脱炭素化に向けた環境目標である「カーボンニュートラル」や人間中心社会構築のための「デジタル化」と、今社会は大きく変革しているように感じています。まさに、目指す次代の主役は中学生です。今起きている事象に興味を抱き、勉学に励み、素養磨きができる教育環境実現のために、「啓明イノベーション」を実現させ新風を巻き起こしていただきたい。 			